孫武異國一覽

三

特別
へ13
3425
4

橋本

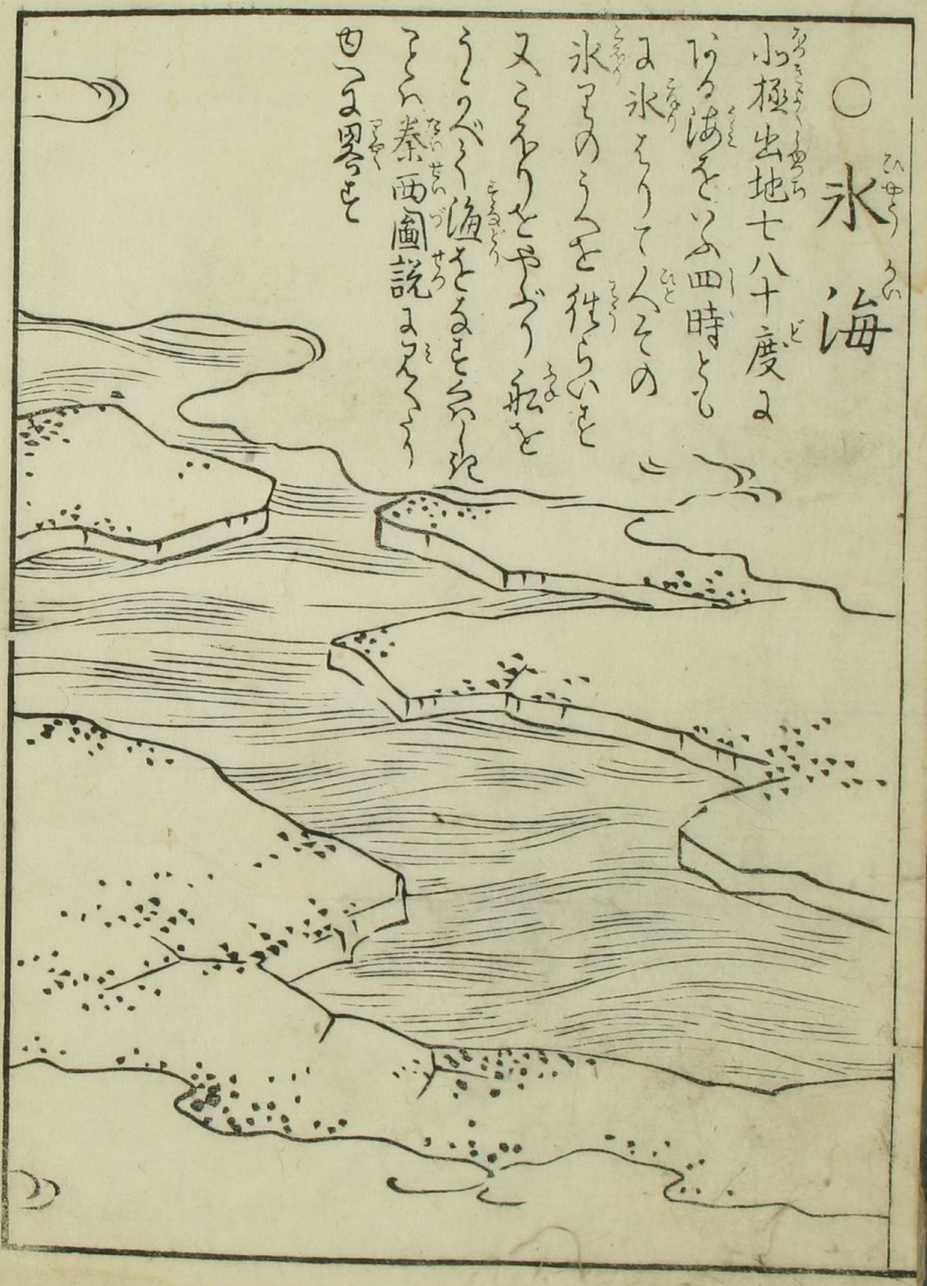
畫本異國一覽卷之四

○莫斯哥未亞國○氷海
○夜叉國○都番國
○尸頭國○亞莫獨剌國
○伯兒齋亞國○波登國
○琴牛國○莆家龍國
○孝億國

13
4

○莫斯哥未亞國

歐羅巴の東北の地過半と蝦夷食
も帝都とムスコビイと称する小種
出地六千五度の所にてもくく
寒風ろう小よ白海ろうみん
海ろうもくく氷て雪たぐ
六月よりほろのこ人物色
白く肖ろう衣服い革衣
とろとろとさて此ほの人ろ狩にぐ
弧んろう一信信ろうて家ろと
とろ人彼人をろひて拔ふ掛ひの
うぬをろうとなろうくれを撃る大
魚ろひとろふを永海ろ津よ
て島ろ船ろのやろう



○氷海

小極出地七八十度ヨリ
ウラ海をふる四時とも
ヨ氷くらてくそのヽ
氷ヲのうをを往らいを
又ふるうとやぶり私を
うつぐく海をるをふれ
ふん秦西圖說ヨりくう
四つヨ器と

ゑるゑるう　ゆ国
二月の彼岸う
八月の彼ごんま
でい日輪四方と
ゑぐりて至ぐう
なう又八月う　翌
二月まで日輪地平
机の下とめうて根
ぐうう　ぐうのに
とらぐも　玄至のお
ぼうぐでい日輪とえ
ることう　彼ろい牛

の蒙昧のごと
つくすもの
大の害
虫
う
う

○都番國

人物頭多く背低く髪
裳おびも革衣とそる樹
下よりろく家居を造り
竹をもて家根を
ふき葺よスモイと
いて日本の百合の
花のごとくの根
を喰ふさてみけ
ものの人は本鈴を
多く積たくさん
をもつて富者人
の人をうらやむ
日本にて金銀

とほりがふるふ本
鈴とふしぐ
安宝ぐるの
うて忠良者の
五段目を
かくしぐ
布ぐるく
きの世の
中ぐや布
ぐるれ
ばおんのい
ふこうる
でいらふ

○尸頭蠻

北亞墨利加のいろり地獄の人眼よ眼なく深あなくてくれぞく首ぬけ出て穢き物を食ひたくなるおうんでからだよりうるひで骨とのぞいて寝るとらくと付玉でるく首伝のぞいてゆくくうと寝てくるくらひ又くるあのひぞうぐるくびゞくどかくうるほどまつてくるさたぐくふくう

ゆくよくしのぞく巢のまぐくうらあく人くあたらいのぞくしやとうてのけうえゝせょくゝ飛ぐぞあろ

○亞莫獨刺國

印度海の南よりあるちいさき嶋なり
そこの人物ひとりして
人まを面ぜびまて
毛屋葉もそ〜狀なる
ひと身ぬまとろうて
おの〜地を領じて
他とけふそぶ
よ金銀をそな
もてもこれをそな

ともなへたまへ金の
塊まりとなれば他まの
者人よりして衣服
食物よ易るとそう
そあ〜えそそ
そたぷどうぬひ
ふそて雪亞
莫猶刺ふ
なるべし

○伯兒麻亞國

東天竺の南海よりうとろこゝ元の代の人民海よ漂流して遂ゆ土人どもさぐゝ出まとるるその時こゝよりむこそて斬ら去の首級百級を悦色こゝろつよ家を築て弱弱国王代基とりて国王代くゝ宮よ居まう土人どもゝ孫をよくゝつゝよ海よ入て琅玕珊瑚の類

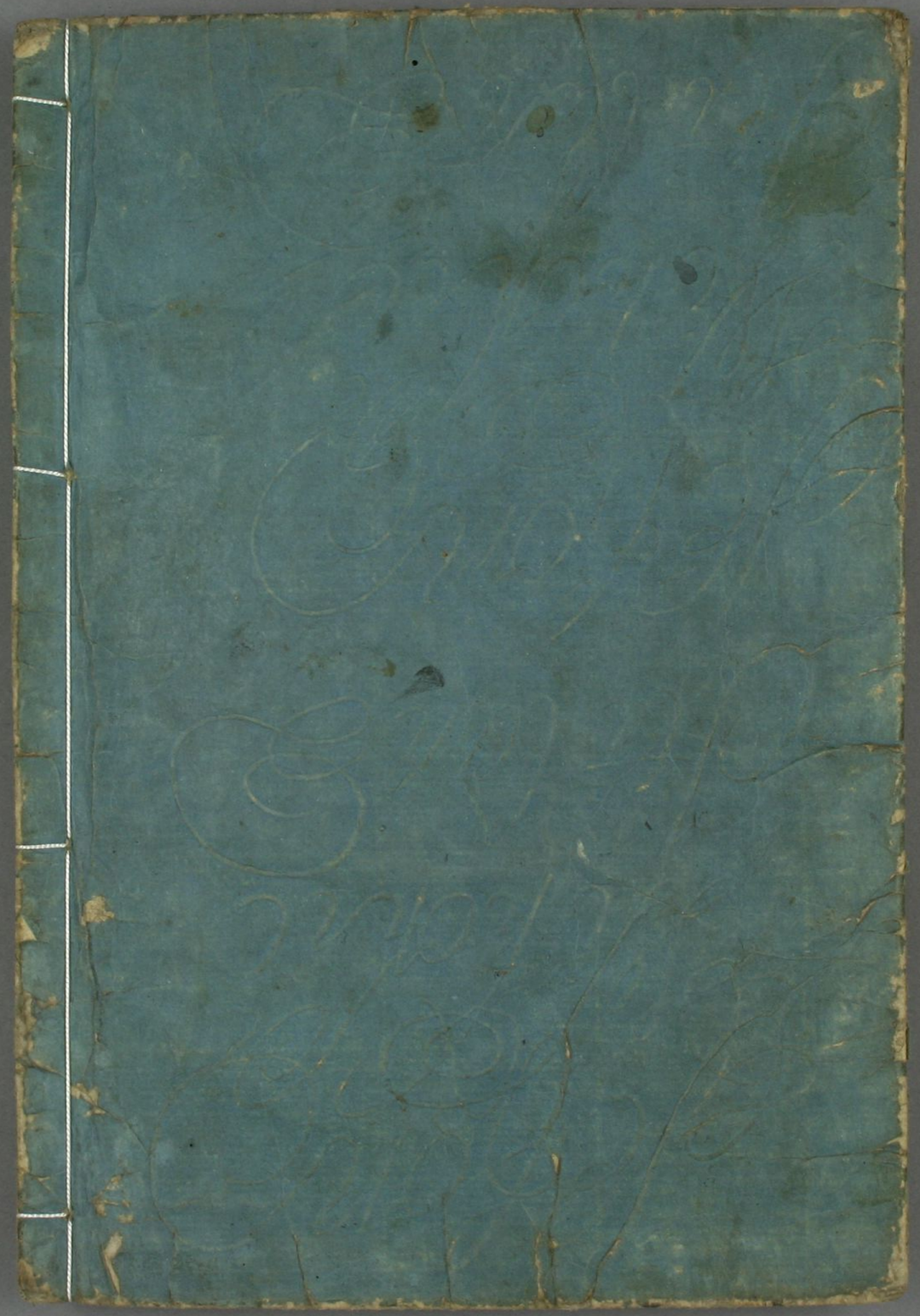
とろこそて此王よ奉羅疾くゝ人やゆひりうてゆ中比やゆひろこそろ月のこゝろよまもろう月のこゝろよかろこゝ二三日おすれハ七月十日行のいつゞ毎年大熟穀ゝとろひぞうくゝ敷よゝこゝいでこゝ出ゆ地ゆ医者悦こゝてこゝどまゝゝゝもろこゝびけくゝのとゝ医者伯兒麻亞とひゆこゝしこゝみこゝよし

○波登國
山陰山陽西海の東南よりの風穀こく熟し米
一年に四度づゝのる
海濱に穀すなの米庫をたく法
の高札をもうく
交易を又けいせ
いの戰場なぶく
ひりてうるおよ
ぶらしこと
ふるう

○琴牛國

東天竺の地より北ぎ南海より
出る玉ろう玉人大よ佛道と
そろぐ又牛の糞をとろく聖を
ゆるとろう此ろう南天竺の
霊鷲山西南より北ろう天竺はん
そろ日ろ遥の海上よりるし
るあき其秋の彼岸ろ玉人城辺より
牛ろて大舎をそ〜まろ口編
霊鷲山より入ろてろれをあと
安ぎろよ
日牛の信彼岸の合
成ろろ此ろ

○菊家龍國
北天竺の小たの同々ゝゝるゝふし
ふゝ今ゝ莫卧
雨ゝ屑せゝふゝ人
男女ゝゝ頭髮をゝる
ゝゝ胡椒を食ゝゝて
魚肉を食ゝゝて
ふゝのゝゝなゝで話
とゝゝゝゝゝゝまで
ゝどゝゝゝ狂ゝゝと
ゝゝゝと話ゝゝと
やゝとゝゝれゝゝひ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝハゝゝゝゝゝ
ひゝゝゝゝゝゝ
のゝゝゝゝゝゝ
ゝれゝゝゝゝ
ゝの
胡椒をゝる
ゝゝゝ
傳由へ
かゝの
ゝど
し

橋本市太郎

○孝億國
土地温暖にして風俗よ
く人物ともに質直にて容貌もまさりて
孝子義士多くこれを旅をこのんで四
方に巡歴をとゝめて
る事既に限りなしまたまたもとゝ
しろ紀氏風ありて唐の王勃
が詩に海内存知己天涯如
比隣とうたへるごとし